

令和4年第9回熊野町議会全員協議会

会議録

1. 招集年月日 令和4年9月30日

2. 招集の場所 第1委員会室

3. 開会年月日 令和4年9月30日

~~~~~  
4. 出席議員（14名）

|          |           |
|----------|-----------|
| 1番 水原耕一  | 2番 福垣内邦治  |
| 3番 光本一也  | 4番 中島数宜   |
| 5番 尺田耕平  | 6番 竹爪憲吾   |
| 7番 諏訪本光  | 8番 沖田ゆかり  |
| 9番 片川学   | 10番 時光良造  |
| 12番 荒瀧穂積 | 13番 山吹富邦  |
| 15番 中原裕侑 | 16番 大瀬戸宏樹 |

~~~~~  
5. 欠席議員（2名）

11番 民法正則	14番 山野千佳子
----------	-----------

~~~~~  
6. 説明のため出席した者の職氏名

なし

~~~~~  
7. 本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	榎並正和
--------	------

~~~~~  
8. 案件

【議会】

(1) 常任委員会の再編について（協議）

(2) その他

## 9. 議事の内容

(開会 9時26分)

○議長(大瀬戸) 皆様方、本日はお忙しい中を全員協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。皆様から様々な御意見を頂きながら本日の全員協議会を円滑に進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ただいまから全員協議会を開会いたします。

本日は、議会からの協議案件1件について御協議いただくこととしております。

それでは、早速協議に移りますが、マイクに関してですけど、文字を起こすのにどうも聞こえにくいらしいので、必ずマイクを意識してしゃべるようにしてください。

本日は、着座をお願いいたします。

これより協議案件、常任委員会の再編について協議をします。

前回の協議における協議では、常任委員会を2つにするということで皆さんの意見は合致したと考えておりますが、今回は意見のありました広報特別委員会を常任委員会にする、また各常任委員会の名称、委員の定数及びその所管について協議したいと思えます。

それでは、まず最初に、広報委員会、今広報特別委員会がありますが、これについて常任委員会とするという意見について、まず整理していきたいと思えます。

まず、そうですね、竹爪議員さんのほうからの提案がありましたが、ちょっともう一度説明と申しますか、趣旨をお願いいたします。マイクを口元に。

~~~~~○~~~~~

○6番(竹爪) 前回、発言させていただいたのは、今まで3つの委員会で、広報が特別委員会で、何となく格下のような感じで、委員会が単独で、広報は特別なちょっと感覚だったんですが、同じレベルでの広報委員会であってもいいのかなというのは自分の思いなんですけど。2つの委員会であるんですけど、またその定数に触れるとすると、広報特別委員会は特別枠でされた。今までの件が、ほぼ私も新人で出たときに広報特別委員になって、そのときの方が4人。また、今回も同じなんですけど、同じ、新しい方が4人入って、前の方がその委員会に入るんですけど、その枠組みは構わないと思うんですけど、3つにして、同じレベルの委員会であつたらいいのかなというのが僕の思いなんですけど。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） はい、分かりました。

そういう趣旨でございましたが、皆さんの御意見を聞かせていただきたいと思いますが、意見はございませんか。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 広報特別委員会は随分いろいろ動いております。その経緯を議長さん、ちょっと説明してあげられませんか。必ず委員長か副委員長が入るよという、大事な時期があったんですよ。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 何をですか。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 広報委員会の今まで工夫、改善したでしょう。それが今になって入ってませんね。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ちょっと待ってください。私、ちょっと広報委員会から離れた時期があるので、その辺の事情は詳しい人にちょっと聞きたいと思いますが。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） いやいや、あなたも入ってみんなで決めた話だから、それ。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 沖田議員、ちょっと説明してもらえますか。ちょっとわしがおらんときだと思います。

~~~~~○~~~~~

○8番（沖田） すみません。8人体制だったときに、偏らないように各常任委員会から2人ずつ入れるというようなことがあったんですよ。今6人体制に戻ってますので、その辺がちょっとどうなのかなということをおっしゃられてるんじゃないかなと思うんですけど。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） それで、荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） そのときのメリット、何で問題点があってそうなったかというのを説明してあげにやあ。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ちょっとよく趣旨が分らないのですが。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） 荒瀧さんが説明したらええ。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） いやいや、わしがしたってデソ・・にならん。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員、何か意見がありますか。申し訳ない、ちょっと今の趣旨がよく分からないので、もう一度説明してください。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 趣旨が分らん。広報は中身のあるものにしたいと、実効性のあるものにしたいということで、委員会の責任のある方が必ず出るようにというのがベースです。プラス、新人の方は内容も今から勉強されるんで入られるというようになったと、そういう経緯がありました。こちらが議長の頃にですね。工夫して。それ理解されてますか、今の議長さんは。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 理解。それはこの委員会を常任委員会にするということに対して何か関係ありますか。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） いやいや、そりゃ、あなたに関係ない思ったら。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員、マイクに近寄ってしゃべってください。マイクを意識してください。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） それはあなたの問題ですよ、大事かどうかというのは。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ちょっとよく分からないので、ほかの意見を聞きましょう。片川議員。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川） あれは前議長さんのときに、各委員会の意見が偏ることなく、満遍なく全委員会のことが広報できるようにということで、各委員2人ずつということじゃった

んよね。そういう趣旨じゃったと思って私は記憶しとるんじゃけどね。その内容はそういうことですよ。今、6人体制になったんですけど、それはええんじゃけど、それを議長さんが知っとられるかいうのを荒瀧さんが聞きよんじゃろうけど、それじゃなくして、皆さんが知るべきは、特別委員会と常任委員会のこの縦分けよね。この名前と内容の違いいうものを、改めて今皆さんが知った方がいいんじゃないかな。その上で協議したほうがいいんじゃないかなということと。

なぜ常任委員会にとられるのかということがちょっと疑問なんだけど、何が違うのかなと思うところも私を含めて感じとられる方もおられるんじゃないかなという意味で、特別委員会と常任委員会の違いいうものを、位置づけいうものをちょっと内容説明をなさったらどうかなと思いますけど。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 前回もこういう話はあったと思うんですけど、条例でうたっているのは名前が違うだけなのと、それから常任委員会の場合は設置することができるというふうに法律でもうたわれておりますし、特別委員会の場合は、これは臨時的な考え方でしているものというニュアンスがあります。あと違うのは、委員長に報酬がある、ないとか、そういう程度の違いでありまして、事実上、法律上、大きな違いがあるかということ、それはいいですね。それが現状だと思います。ネームバリューといいましょうか、特別がつくか、つかないかということで、大きな違いがあるわけではないですね、実質はね。それでいいですか。

事務局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（榎並） すみません。補足です。常任委員会の場合は必ず委員さんがどれかに所属しないといけないというのが1つあると思います。特別委員会というのは、要は特別なことを付託されたときに設ける委員会であって、常時設ける必要はないんですけども、広報委員会を特別委員会として、年間の広報について、町、要は議員さんの活動を報告するという部分で、全体の中での委員会という、それも重要な委員会ではあるんですが、常任委員会は主には町行政の内容についてそれぞれの委員会のほうで審議していただく内容であるというのは、もちろんこれは常任として通常、どこの市町も行われている委員会です。特別委員会は、それに併せて委員会によっていろんな特別に協議しないといけないときに開かれる委員会というような感じで理解していただければと

思います。なので、特別委員会は要は重複されても別に問題はないと思うんですが、今現状、熊野町の場合は常任委員会は必ずどこかに一所属するという形になってるところの違いがあると思います。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 何年たちますかね、広報委員会ができて。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ちょっと存じませんな。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（榎並） 多分前からあったんじゃないですか。

~~~~~○~~~~~

○15番（中原） 20年ぐらい前。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 20年ぐらいだそうです。

~~~~~○~~~~~

○8番（沖田） 前はなかったけえね、議会だよりが。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 趣旨は、町民に議員活動をPRじゃないん、正しく伝えるというのは、国から多分流れてきとんよ、これは。だから、その上で全国的に広まっていったと。ただ、それが実質的な町民へ伝えられとるかどうかという検証はなかなかしてないと、これが実態です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員は、これを特別委員会を常任委員会にするという案には賛成ですか、反対ですか。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） そういう反対、賛成もないんですよ。実質的な委員会になるように。

で、今ちょっとお聞きすると、何か権威がないというか、実質的に落ちるといような認識を持っていらっしゃるように感じますが、私は逆だと思いますね。広報から逆に各委員会にしっかり活動して広報に、実のあるものにしてくれと言ってええはずなんですよ。だから、私は格下じゃないと思うね。だから、どの立場でもええです。委員長、そのスタッフの能力次第です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかに御意見はありませんか。沖田議員。

~~~~~○~~~~~

○8番（沖田） 先ほど局長からのお話もありましたように、そもそも広報特別委員会に特別がついてることがどうなのかなということと思うんですよ。基本的に、先ほど言われたように特別がつく委員会というのは、例えばそのまちの調査するべき、例えば熊野町であれば筆の里工房開発事業特別調査委員会とか、そういうふうに常にあるものではなくて、何かのことを特別に調査する委員会。例えば、府中や海田なんかは災害特別委員会がありますけれども、そういったような、常にあるものではないというものが特別がつくんだと思うんですよね。ですから、そもそもうちの広報特別委員会に特別がついてることがちょっとどうなのかなと思いますので、名前を広報特別委員会じゃなくて、広報広聴委員会とかいうふうに変えればいいんじゃないのかなと。中身的なことを考えるとそうなのかなと思います。

先ほど荒瀧議員がおっしゃったように、私も格下とは思ってないんですけども、ただ特別というのがついているから何かちょっと違うような印象を受けるのかなとは思いますが、実際に我々が1期で入ったときには、事務局のほうでほとんど紙面を構成されましたので、でき上がったものを議員がチェックするというような形の広報委員会だったんですけど、2期目のときからはもう議員が全部やろうということで、紙面から何か全部やっていくというふうに変ってきたので、確かに荒瀧議員がおっしゃるように、精力的にというか、常任委員会以上にたくさん回数を設けてやっておりますし、その辺に関しては別に格下とは思ってないんですけど、ただ特別とつくからちょっとそういう印象になるのかなと思うので、要は名前を広報特別委員会じゃなくて、広報広聴委員会に変えればいいだけのことなのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 時光議員。

~~~~~○~~~~~

○10番（時光） この広報に関して、今、沖田議員が言われたように、私が入った頃からいろいろ視察に行ったり、ほんと勉強会に行ったりして、随分変わってきたと思います。我々の手でつくろうということで始めたことだと思うんですよ。

ただ、常任委員会というのは、私の思いではやはり町の行う施行するいろんな議案とか、そういったものの調査・研究、もしくは町民の代表として町の行政を見張る役を、それを全員ですればいいんですが、部門ごとに分かれてやろうという趣旨と私は考えております。そうした中で、この広報ですかね。これほんと回数も多いですし、非常に一生懸命やっておられて、私も少しおらせていただいたんですけど、大変な委員会だと思います。

ただ、今の内容ですね、荒瀧議員が言われたように、我々の議員がどれだけ働いてるかというのを町民に見てもらおうということが一番で、それによってもっと働けという内容のものをメインとしてやっとなだと思うんで、上とか下じゃなくて、やはり内容的なものがちょっと私は違うと思うんで、逆に特別に格が上か下かいうなら、特別に格が上のもものという感覚で私は特別委員会のままでいいと思います。

以上。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかに御意見はありませんか。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 議長さんは、議会を統理する役目です。議長はどう思われますか。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 私ですか。私は、私の意見は今の広報委員会は神石高原町のように常任委員会にしてもいいと思います。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 理由は。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 重要な問題だからでしょうね。それこそ、よくあるんですけど、広報広聴委員会というのを常任委員会にしているところも結構あります。ああいう、どういんですか、研修会とかを何回か行かせてもろうたけど、そのほうが好ましいというような意見も先生方からあったし、そういうことですね。大きく違うわけではないんです



けれど。しかも専属じゃなくて、広報委員会の人らは兼務と、今の形ですけどね。ただ、名前がそれこそ特別を取っただけみたいなもんですけど、それでいいのかなとは思いません。それは、私の個人的な意見です。

荒瀧議員。

~~~~~〇~~~~~

○12番（荒瀧） 議長としての意見だと思いますけども、町民はこんなことが聞きたいという意味では、一般質問もこんなことをしてくれという発言ができるのは広報委員会ですよ。もっともっと深めて、議論を深めてくれと。質の高い内容の広報を出したいと、そういう意味では横の串ですよ、広報は。だから、非常に大事な委員会だと思いますよ。

~~~~~〇~~~~~

○議長（大瀬戸） 広報が大事か大事でないかというのは皆さん共通で大事だと思っておられると思いますよ、それは。大事じゃないとか、そういう話をしてるわけじゃなくて、必要だし、広報の人たちは毎週、毎週大変な作業をされてますし、大事なのももちろんでありまして、もっともっといいものを目指してやられているんだと思いますからいいんですけど、問題はそれを今までどおりのやり方で特別委員会でやっていくのか、常任委員会としていくのかというのを今ちょっと皆さんの意見を集約したいなということなんですよ。

荒瀧議員。

~~~~~〇~~~~~

○12番（荒瀧） 大事に聞こえなかったですかね、わし非常に大事な委員会だと思いますよ。質の高い、議員としてのプライドとして。

~~~~~〇~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員、大事だということは皆さん認識しているという話を今したばかりですよ。

~~~~~〇~~~~~

○12番（荒瀧） で、あなたはどういうふうな指導をされましたか、広報委員会に。もっとこんなことをしたほうがいいんじゃないか。

~~~~~〇~~~~~

○議長（大瀬戸） そんな話は今どうでもいいんですよ。今ちょっと話をそらさないでくださいね。ほかにこの常任委員会にするとか、今のままでいこうとか、いろんな意見が

出ましたけど、例えば、広報委員会のメンバーの人たちの意見をちょっと聞かせてもらいたいですね。水原議員からちょっと。

~~~~~○~~~~~

○1番（水原） 僕が思うに、広報委員会というのは新人の人は必ず入らないといけないという部分の枠組みの中で、普通の常任委員会は2年たんびの交代ができるということなんですが、広報委員会に関しては、新人の方は4年間、強制みたいな感じに今あると思うんですよね。そういう意味で、特別ということは僕は正しいんじゃないのかなとは思いますが。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 福垣内議員。

~~~~~○~~~~~

○2番（福垣内） 今回、話題になっているのは、常任にされるか、それとも特別のままていくかというその2択というたら何ですが、どちらがいいだろうかという比較討論をするんだと思うんですが、そのときに、御説明の中の委員長に報酬がつくとか、つかんとか程度ですと、格の問題ではないですということになっておりますので、仮に常任にすることによって、今水原議員が言われたように、新人がという言い方をしたらいかんのだと思うんですけれども、研修の場としてみんながやっていくべきだという点と、各委員から委員長または副委員長が出てほしい、参加を求める、ないというものが文言化されるのであれば、変えていってもいいかなと思います。今教えていただくまで我々は委員長、副委員長が必ず入るんだという申合せというものは、やっぱり言葉だけでは残っていきませんので、こういう場があったから我々は知ったようなことですので、そういうことができるなら。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 片川議員。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川） それはない、ないない、委員会から2人出しましょうという話。

~~~~~○~~~~~

○2番（福垣内） 委員会から、委員長、副委員長ではない。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ちょっと待ってください。記録するのに大変なんで、一人ずつしゃべってください。片川議員、もう一回。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川） ないならないで議長が言うべきよ、今のは。否定しとかにやちやんと。

~~~~~○~~~~~

○2番（福垣内） ちょっと僕の認識不足でした。各委員会から出る、最低2人ずつは出すというようなものは文言化されてもいいと思います。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 光本議員。

~~~~~○~~~~~

○3番（光本） 今、いろいろ説明、皆さんからあったんですが、特別委員会と常任委員会の違いからいえば、広報委員会は常に設置してありますので、活動もしてありますので、特別委員会とは、説明とは若干違ったことで一生懸命やりよるんかなと。内容的には、竹爪議員は格下と言われたんですけど、私自身は格下とも格上とも思っていない。毎回、荒瀬議員心配されたようですが、皆さんのいろいろな意見、活動をできるだけ公平に、町民の方に分かりやすく伝えるにはどういうふうにしたらええかというのを、委員6人がいつも頭を痛めて作業をしよることが正しいというか、正確な内容です。というんで、私の思いとしたら、特別委員会、常任委員会、どちらでもええような気がして、私は特に意見は、この違いについていうか、名称変更については特には気にしておりません。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。中島議員。

~~~~~○~~~~~

○4番（中島） 私も先ほど水原議員からあったように、新人はこれをやるんだという、もうそれ1点しかなくて現在まで来ておるんですけど、その中でいろいろ勉強もさせていただいたし、引き続きやろうかと思っておりますけど。

ただ、今度は議員数が減るということで、その辺でたまたま今回我々が4人の新人ということで、ある程度メンバー編成はできたんだろうと思うんですけど、先々そういった意味では何人新人の方がおられるか分からないし、そうすると先輩の方々が当然、4

人なり、5人なり、いろいろ入ってこられるというふうなことがあるので、今の順番で、3つを1つのものとして捉まえて回転さすというのも一つの方法かなという感じがする。名前に関しては、私も特別だろうと何だろうとやるしかないんで、それはあまりこだわってません。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

竹爪議員は、先ほど話は、また。あ、尺田議員。

~~~~~○~~~~~

○5番（尺田） ちょっと私が思ってる特別委員会と常任委員会の違いなんですけども、常任委員会については法的に議員が行う職務、行政の調査・研究とか、ああいったものが常任委員会として名乗れるものであって、広報については法的には定められてない。今どこも大体やってはいるんですけども、やってもやらなくてもいいというものが特別委員会なのかなというふうに思ってるんですけども。

さっき格のことをおっしゃいましたが、議会広報というのは町民に議会の動きを知っていただくための大変重要なツールであって、常任委員会よりも忙しいものでもあるんですね。大変重要なところではあるんですけども、先ほど時光議員がおっしゃったように、そのすみ分けというのはそういった法的な根拠があるかないかというもので考えればいいんじゃないのかなというふうに思うんで、特別委員会のままでいいような気はしますけど。どっちでもわしいっちゃいいんですけどね。

さっき光本議員がおっしゃったように、これについては常時設置されておるということもありますので、これが常任委員会に上がったところで、名称を変えたところで別に何とも思いませんので、皆さんの判断に任せたいなというふうに思います。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

この際、皆さんに御意見を聞きたいと思いますので。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 諏訪本先生が委員長のとときに、随分工夫されたり、苦勞されてます。

諏訪本先生から御意見を聞いてください。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） そうしようと思ったところ。諏訪本議員、ちょっと意見を下さい。

~~~~~○~~~~~

○7番（諏訪本） 先ほど時光議員さんが言われましたけども、3つの常任委員会というのはそれぞれの分野について、行政のことについての分なんです。広報委員会というのは角度が違うんです。要するに、この3つの立つ位置と広報委員会というのは別の角度から物を言う、あるいは仕事をするという内容になると思うんです。だから、そういう面で、私は先ほどから皆さんもいろんな意見を言われてますけども、格下、竹爪議員、格下という話がありました。私は逆に言えば特別な重要な会議であるなというように思っております。

ただ、かつて議会事務局がつくって、それをチェックだけするような段階では、それはある意味では格下かも分からんですけども、しかし、委員がみんなで頭を突き合わせてつくる資料というのは、これは本当に貴重なものだというふうに思っております。そういう面で、私は何年前ですかね、私が委員長をしよる頃に沖田議員が言ったと思うんですが、議運の中に広報委員長が入るべきじゃないんかという話があったときに、却下というか、のうなったんです。そういう記憶はあるんですが、そこら辺のときにやっぱりもうちょっとしっかり議論をしておればよかったなというような気持ちでおります。私は、だから先ほど言いましたように、特別な角度の違う、常任委員会とは角度の違う広報を担当する委員会として、しっかり重要なポジションというか、大切なものであるというように私は思っております。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

片川議員、御意見はありませんか。

~~~~~○~~~~~

○9番（片川） そうよね、論点のスタートがわしはちゃらんぼらんじやのう思うとって、格が上とか下という感覚で捉える方が私は違うと思うんよね。それは仕事内容としては大変な内容ですよ。これ名称だけの問題でとらわれとってんかなと思うんだけど、大変活発に活動されてる中で、今度は常任委員会ということになると、今の活動からいけば、議会があったときだけです。内容は濃いんですよ。別にばかにしとるわけでも、否定しとるわけでもないですが、常任委員会という位置づけにすると、今の定例会の後だけでなくして、先ほど来から皆さんの意見が出てるように、議会の中を町民に知らしめる

ために広報していくということになるのであれば、毎月この活動をしていかにゃいけないんじゃないかなというような感覚で今聞きよりました。特別委員会という位置づけで、定例会の後、広報しよう。じゃあこれを常任ということになれば、毎月皆さんが活動する、このことについて広報活動をしていく議員が出てきやあせんかのう思うて、ちょっと私は個人的に考えたところです。

私自身は、別に名前にとられることはない、内容のある委員会をしとられるんじゃない、どっちでもええがなと思う。はたまたこれ報酬にこだわってんかなと思ったり、ちょっとうがった見方も今しながら聞きよりました。私はどっちでもいいと思います。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

山吹議員、御意見ありませんか。

~~~~~○~~~~~

○13番（山吹） 私は、もともとは広報ができたのは27年前だろうと思うんですよ。

その当時は、派閥ではない、党推薦の候補者が入って、その当時、田原さん、野村さん、福垣内さんが同期なんですよ。その方を交えて新人の議員さんが入って勉強せえと言われて、その当時、もうひどく文章に問題があったんですよ。南田さんの文章なんかだったら1ページぐらいとりよったんですよ。これも困るなと思って、党のための議会だよりになったらまた困るなというようなことがあって、それで2年目ぐらいに私が言わせてもらったのが、自分の思いを、党の思いをこの議会だよりには載せられませんよという話をしたんですよ。執行部のほうの答弁もできんし、ということで、それは個人的に自分の後援会なり、党なりが独自で会報紙を作られたらいいじゃないですか。これは議会の問題を取り上げて載せるのが議会だよりだったんです。それで、広報委員会だったと思うんですよ、最初はね。私が広報をやめて特別委員会が、そのときはおったんですが、どういう経緯で特別がついたのか、よく分からないんです。だから。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 常任委員会だったということですかね。

~~~~~○~~~~~

○13番（山吹） いや、常任委員会ではなく、広報委員会、ただの広報委員会だったと思うんですよ。わしもちいとぼけちよるけえ、違うかも分からんけども、そういう経緯だったように思います。だから、いろんな意見が出ましたね、今度は答弁を議会だより

に載せられん、この答弁には答えられんということも問題がありましてね、だからさっき
言いましたように、個人の後援会なり、党なりの思いを個人の広報紙で伝えてもらうよ
うにお願いしますという話をした覚えがあります。

さっきからの話を聞いてますと、特別であろうが、常任委員会であろうが、どちらで
もいいんですけども、そこにこだわる必要もないし、ただ広報委員会でいいんじゃない
かなというふうに私は思います。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 中原議員は御意見はありませんか。

~~~~~○~~~~~

○15番（中原） ありません。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかに御意見、もう一回ありますか。諏訪本議員。

~~~~~○~~~~~

○7番（諏訪本） ちょっとさっき一つ申し上げるのを落としたんですが、私が委員長当
時からずっと思ってたのは、先ほど沖田議員が言われたけども、広報広聴委員会とい
う、さっき沖田議員が言い方をされたんですが、私は広聴の関係ですよね。こういった
町民の声を聞いたりとかいう関係のことを大事にしたいなというように思いながら広報
のほうの仕事をさせてもらいました。その一環で、ちょっと今この二、三年、もうなく
なってますけども、ワールドカフェというのを始めました。そのワールドカフェが1年
か2年して、実際には議運のほうの取扱いの業務のほうに入って行って、広報委員会の
ほうの業務から外れたんですよね。だから、そういったときに、私は委員長をしたりし
ながら残念な思いでおりました。

そういう面ですと、さっきもちょっと言いましたけども、広報の委員長はやっぱり
議運のほうに入って、そういった公聴会とかいうようなことが開催できるようないろん
な形があると思うんですよ。どういう形で進めていくかというのは、一番とりあえず最
初にやったのはワールドカフェなんですけども、中学生を対象にしたね。そういったよ
うな観点を持って委員会をより充実させていこうと思ったら、私は議運のほうに入れる
ぐらい広報委員会というのはしっかりした役割というか、そういったポジションになる
べきではないかなというふうに私は思っております。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

皆さんの御意見が出そろったようですが、おおむねこだわらない方のほうが多いような感じで聞いておりました。名前をどうするかという問題ですが、名前にこだわらずに今の形で、今のやり方で広報委員会を今後も扱っていくということは、大筋皆さんの御意見ではないかと思うんで、これでよろしいでしょうか。

荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 違うよ、それは中身を検討せにゃあからんということですよ。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 中身のことじゃなくて、今の形態を、今のやり方で今後もやっていくということを取りあえず決めさせてもらいたいと思いますが、どうでしょうか。

（「それでいい」の声あり）

○議長（大瀬戸） それでは、今の常任委員会にするとかいうことではなくて、今のようなやり方で進めるということ。それから、名前を変更するかどうかに関しては、どうしましょう。また、日を改めて、変えるのか、今までどおりでいくのか。

○8番（沖田） ……いいんじゃないですか。

○議長（大瀬戸） それでもいいぐらいですが、名前に関しては皆様で妙案を考えておいってください。要するに、今広報特別委員会は現状維持ということで結論とさせていただきます。

（「はい」の声あり）

○議長（大瀬戸） 続きまして、今度は常任委員会を、今までの議論で2つでいこうと、兼任なしで、重複なしで2つでいこうという意見で大体まとまったと思います。

それで、お手元に部局、組織図を皆さんお手元に配られていると思います。やっぱり大きな部が5つあります。この部をまたがって常任委員会をつくると、何かと不便を生じるんじゃないかというふうに私は思いますので、できればこの5つの部を2つに分けるという形がいいのではないかというふうに思っております。皆さん、まずそこらあたりはいかがでしょうか。

片川議員。

~~~~~○~~~~~


○9番（片川） おっしゃる意味はよう分かるんじゃないけど、文教と民生は教育委員会のほうの流れで、幼保小中いう流れができとるのに、それに議会がついていかないというのはおかしいと思いますよ。部単位にやると、幼保というものを切り離れた状態で今来とるわけですよ。でもこの数年、幼保小中いう形で教育委員会のほうは進んでますので、それにやっぱり議会も倣うべきじゃないかなと思いますよね。そこは文教へおった中でずっと感じてきたことなんですよね。その辺はちょっと頭に置いて議論していただきたいなと思います。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 今の3つの分では、文教はいわゆる小学校以上、総務厚生が幼稚園以下というような担当になっておりますので、このあたりは今御意見あったように、改善してもいいところじゃないかとは思っております。

ほかに御意見ございませんか。時光議員。

~~~~~○~~~~~

○10番（時光） 今、組織図を見せていただいておりますが、副町長の下に6つの部があるんですかね、公営企業まで入れて。この中で、私が思うに、今片川議員が言われた教育部と健康福祉部ですか。一緒になれば、揺り籠から墓場まで行くんじゃないかと思えます。ただ、だから総務と住民生活部、建設農林ですか、この3つが一緒になれば、どこかで何か弊害があるかと思いますが、そこらはちょっとまた考えていただければいいんですが、私はこの2つで分ければという思いです。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 今御意見ありました。教育部と、まあ教育委員会ですね。教育委員会のところと旧民生の健康福祉部ですね。これが関連が深いと、先ほどの片川議員さんも言われたとおりですけど、それが1グループ。あとの残りをもう1グループというような御意見でした。

ほかに、これとは違った御意見をお持ちの方はおられませんか。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 名称が何年かごとによろころ変わります、今頃ね。ただ、行政、執行部のほうも趣旨を持って、これ編成されてらっしゃると思うんですが、そのあたり情報はございますか。調べられましたか。

〇議長（大瀬戸） どういうことですか。

〇12番（荒瀬） 行政も部を編成する。最初は、昔は民生部1つですよ。それを2つに分けて云々という流れがあるでしょう。それは趣旨があって変えられたんですね。まだ話しよんで。だから、そういうのをこの中に加味して説明していただかないと。

〇議長（大瀬戸） 加味。

〇12番（荒瀬） 編成するでしょう、常任委員会に。

〇議長（大瀬戸） いいですか。

〇12番（荒瀬） いやいや、だから常任委員会をこういうふうに2つに変えた。その趣旨はこういうことなんだということですね、人数の問題かの。そうした中で、行政のほうはこういう状態があると。編成はこういう趣旨があってなってますというのを説明してみてもらえませんか。

〇議長（大瀬戸） ちょっとよく分からないんですよ。今までのいきさつとしては、執行部のほうも何年かごとに再編をしてこられておりますが、議会の委員会としては、今までそれに合わせるようなことをしないでずっとこの3つでやってきたと思うんですね。何かと先ほどのような話で、矛盾なり、あるいは総務厚生がやたら調査項目が多いとか、いろんな矛盾が起きてきたので、この際、それを整理しようという趣旨もあります。

それで、今はこの4つと教育部ということですが、危機管理のほうが災害からできたところですけども、これおおむねこれでいくんだらうと思います。また何年か後に、あるいは町長が代わって大きく変わる可能性はありますよ、それは分かりません。今のところはこれでいくはずですので、この時期にこれに合わせた形で常任委員会も合わせればいいのかというのが私の意見ですが。いいですか。

時光議員。

○10番（時光） これに関しては、数年前まで中におられた光本議員の御意見をちょっと教えていただきたいんですが。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありますか、じゃあ、光本議員。

~~~~~○~~~~~

○3番（光本） 御指名いただいたんで。

組織図というか、機構改革については、必要に応じてその都度その都度やってきております。直近の状況に、社会情勢等に鑑みて、このたび、去年か、現在の組織に改編したという状況です。

例えば、国においては、先ほどからあったように幼保小中なんですけど、実際にはもう妊娠から始まって幼保小中、子育て、ひきこもり等までを国のほうで一括管理しようという流れ、一部こども家庭庁ということも出てるんですけど、そういうような流れを踏まえて熊野町も合わせている部分もあります。そのほかについては、災害とか、その時々懸案が生まれたときにどう対応していくかというところを踏まえた、そういうタイミングを見ての機構改革をその都度行ってきたという状況があります。そういったことがあって今日のこういう、新たに去年の4月から組織替えされたという状況になっております。

それはそれなんで、私の意見は、2つの委員会は時光議員が言われたように、1つは総務、住民生活部、農林建設部を1つ。もう一つが、健康福祉部と教育部ということで、若干、住民生活部の中に国民健康保険という、民生、福祉に一部入るかなというものがあるんですけど、それは個々の業務に、細かい部分についてもあったりするんで、その辺は100%割り切ってしまうことはできんと思うんですが、そういう2つに分けた所属の部の構成はそういう形がいいかなと思っております。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。

皆さん、ほぼ同じような意見かなというふうですが、ほかに御意見はございませんか。  
荒瀬議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀬） 今、大学でも危機管理科という学部ができよります。全てのジャンル

で危機管理ができる組織が必要になるんですね、トータルで物を見るために。だから、今は災害ばかり見ておりますが、今の教育でもそうですが、全てのジャンルで財政もそうでしょう、危機をコントロールできるポジションがこの副町長レベルに1つ必要だろうと思いますね。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） いや、町の行政組織の話じゃなくて、議会の常任委員会の話を今しております。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） いやいや、だから、その常任委員会を管轄する意味でも、全てを管轄できるポジションの人が必要な時代に入っております。そういうのも今回の編成の中でしっかり入れておく。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 具体的にはどういうことですか。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） だから、危機管理監を権限のある副町長レベルで置くんですよ。教育での問題が。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 荒瀧議員、常任委員会の話です。常任委員会の話です。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） だから、常任委員会両方をまたげる危機管理監というのが要るということです。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ほかにございませんか、御意見。

中原議員。

~~~~~○~~~~~

○15番（中原） 今の話が出たけえ、これ議長さんと各常任委員長さんで話し合せて、たたき台をつくられたらどうですか。ここで話をしたけえいうて、まとまりゃせんよ、今、いろいろと。じゃけ、ある程度の今話が出たんで、各委員長さんと議長さんで話し合せて、たたき台をつくって、こうします、これはどうですかいうのをやられたらどうでしょうかね。要らんことを言うけど。

～～～～～
○議長（大瀬戸）　そうですね。今、皆さん、今出た意見はほぼどれも同じだと思うんですよ。

～～～～～
○15番（中原）　たたき台をどうしてもつくらにゃいけまあ。ここでぱっと分けましようというわけにはいかんけえ。つくられたらどうですかいう。

～～～～～
○議長（大瀬戸）　たたき台といいましょうか、実は何種類か頭にはありますが、ただ、皆さんの合意といいましょうかね、共通点というところを探ってみたいなと思いますので意見を今伺っているところです。

　今、意見がありました人たちは、皆さん同じような意見だったと思います。これより違う意見があれば、また議論していきたいと思いますが。もしないようでしたら、先ほど来ありました、教育委員会の教育部と健康福祉部を1つにして1つの常任委員会、それ以外をもう1つの常任委員会の2つにするという意見で集約できるかと思うんですが、まずこれでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（大瀬戸）　名前については、それこそまた次回でも名前を、名前についてはそれこそたたき台をつくってまいりましようか。それか、今案があればもう、こういうのがいいという意見があればそれでお聞きしますが。

　沖田議員。

～～～～～
○8番（沖田）　前回も申し上げたんですけれども、文教厚生委員会と総務建設委員会がいいんじゃないですかね。

～～～～～
○議長（大瀬戸）　文教厚生。

～～～～～
○8番（沖田）　はい。

～～～～～
○9番（片川）　いいですか。厚生と含めると、まだ幅が広がってき過ぎはせんかの。それこそ今光本議員もおっしゃったが、我々が新潟へ視察に行ったときに、ゼロ歳か

らいうようなやり方で新潟が、三条市じゃったかな、やっとなされた。それが理想だなと思うて聞いて帰ったあれもあるんだけど、そういう面においては教育の一環だから、文教は文教のまんまでええんじゃないかな。厚生を入れるとまだここ幅が広がってくるような気がするんよね。ほかの部門は総務へひっつけるわけだから、ちょっと誤解を招かんかなという感じがしますね。

~~~~~〇~~~~~

○議長（大瀬戸） 参考までに、海田町が2つなんですけど、同じような分け方をしています。これを見ますと、総務建設と文教福祉という名前をつけてます。これは海田の例です。

時光議員。

~~~~~〇~~~~~

○10番（時光） これさっき中原議員が言われたように、ちょっとよその市町も含めて、これは何個か議長のほうで案を出していただいて。というのが、やっとなここで2つの線引きができたところで、名前まで今決めんでもええでしょう。余りにも焦り過ぎじゃ思うんで、ちょっと案を出して、次回の全協で諮っていただけませんか。

~~~~~〇~~~~~

○議長（大瀬戸） それじゃあ、次回までにちょっと何種類か案を考えてみます。それで、もしこういうのがええんじゃないというのがあったら言ってください。よそのまちの例とかを参考にしてみますんで。じゃあ、そうさせてもらいます。

それから、次の10月末でそういうあらかたそういうことを決めたいと思いますけども、結局12月議会のほうでこれらの条例を発議したいと思いますので、念頭に置いてください。

それでは、常任委員会の再編につきましてはこの程度として、次に移りたいと思います。

その他として、ちょっと私のほうから、荒瀧議員が国の議長会のほうから15年表彰を受けられております。打診がありました。荒瀧議員はお受けになりますでしょうか。15年表彰じゃそうです。

~~~~~〇~~~~~

○12番（荒瀧） 趣旨は何ですか、表彰の。

~~~~~〇~~~~~

○議長（大瀬戸） 15年頑張ったねという。

~~~~~○~~~~~  
○5番（尺田） ほじゃがもろうたんじゃけえ、もらやあええが、それは。

~~~~~○~~~~~  
○12番（荒瀧） 全国議長会の会長さん。

~~~~~○~~~~~  
○議長（大瀬戸） ちょっとこれまだ全協の中なので、やっぱり文字を起こしますから、きちっとしゃべってください。時光議員。

~~~~~○~~~~~  
○10番（時光） 議長と荒瀧議員で決めてください。これは我々が言うことにはないです。

~~~~~○~~~~~  
○議長（大瀬戸） それでいいですか。じゃあ、後ほど荒瀧議員、後ほどというか、今日じゃないかもしれませんが。

~~~~~○~~~~~  
○12番（荒瀧） あんたはもろうたん。

~~~~~○~~~~~  
○議長（大瀬戸） 今年じゃったか、もらいました。じゃあ、後ほど、じゃあ個別にお伺いしますね。

ほかに何か、その他、何かありますか。

尺田議員、あれば言ってください。

~~~~~○~~~~~  
○5番（尺田） そうじゃのうて、別件なんじゃけど、来年度の選挙ね、供託金が導入されるけえ、どこかで勉強会なりをちょっとしてもらえんかなということですよ。

~~~~~○~~~~~  
○議長（大瀬戸） それに関して、局長のほうから説明をお願いします。

~~~~~○~~~~~  
○議会事務局長（榎並） 前回のときにそういう御意見をいただきましたので、町の選管のほうに一応お願いしました。その結果、来月の末、全協の後に勉強会、一応自由参加でございますが、聞かれない方は一応選管のほうから職員が参りますので、そこで大まかな制度の変わったことについての勉強会をさせていただき、あと質疑応答という形の

ことがとれるという形を今調整しておりますので、来月の31日の全協の後に、この場でやらせていただければと思っております。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 新しい法律ですので。荒瀧議員。

~~~~~○~~~~~

○12番（荒瀧） 立候補予定者には情報はどうなりますか。予定者というか、今考えよる人。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） 局長。

~~~~~○~~~~~

○議会事務局長（榎並） 選管のほうとしては、多分、立候補される方についてももちろん説明はあります。ただ、今回は議員さんの勉強会という形で、現在いらっしゃる議員さんのほうから要望があったという形で説明をさせていただくということでございます。

以上です。

~~~~~○~~~~~

○議長（大瀬戸） ありがとうございます。次回、10月31日の全協の後ということになります。自由参加ですので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして全員協議会は終了といたします。

（閉会 10時24分）

上記の記録の内容が正確であることを証するため署名する。

熊野町議会議長

熊野町議会副議長